

令和2年度 教師海外研修 実証授業

第4学年 音楽科 学習指導案（略案版）

令和3年1月15日（金）

第6校時 14:30~15:15

対象 第4学年3組 28名

授業者 樋口 善幸

1 題材名 「ちいきに伝わる音楽に親しもう」

教材名「こきりこ節」「アイネクライネナハトムジーク」「八丈太鼓」「校歌」「君が代」

2 題材の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	日本の民謡や地域に伝わる音楽の歌声や楽器の音色、旋律と曲想との関わりについて気付く。	音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の民謡を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。	進んで地域に伝わる音楽に関わり、協働して音楽を聴いたり話し合ったりする活動に楽しさを感じながら、学んだことを今後の生活や学びに生かそうとする態度を養う。

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に向かう態度
評価規準	日本の民謡や地域に伝わる音楽の歌声や楽器の音色、旋律と曲想との関わりについて気付いている。	音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の民謡を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。	日本の民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽を調べたりして、日本の民謡や地域に伝わる音楽への興味・関心を高めようとしている。
内容のまとめとりの評価規準	歌声や楽器の音色、旋律などによる日本の音楽の特徴と曲想との関わりについて気付いている。	・音色や旋律の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、日本の音楽を味わって聴いている。 ・旋律や音色の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。	・音色や旋律の特徴などによる演奏のよさなどを見いだしながら聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ・民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽を調べたりして、地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習に取り組む、自己の考えや学び方を調整しようとしている。

2 本時（全4時間中の第3時）

(1) 本時のねらい

「八丈太鼓」の演奏や、演奏者の話を聴いたり、友達と話し合ったりする活動を通して、地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさを自分なりに考える。【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展開

展開	○学習内容 ・学習活動 C：予想される児童の反応	◆留意点 ★評価
導入 5分	<p>・前時の、「越中五箇山こきりこ唄保存会」の人の話をもとに、五箇山の人々が、どのような思いで「こきりこ節」をつないできたのか、話し合いで出た意見を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【都会からお嫁に来て、「こきりこ」を踊っている人の話】</p> <p>「住むなら踊る、それが当たり前なんです。踊りは楽しいですよ。全国でここにしかない踊りを踊れるって、誇らしいです。」</p> <p>【ふだんは都会にいて、お祭りのときに帰ってくる人の話】</p> <p>「古いスタイルの踊りや、即興でつくったという唄。古典的で素朴で、「ほんもの」っていうのがみりよくです。」</p> </div> <p>C：「こきりこ」は、楽しいけど難しい。私は体験でうまくできなくて、くやしくて、だからやりたいと思った。昔の人も同じ気持ちだったのではないかと思う。</p> <p>C：なくなると、もう1から作れないから、つなごうとしたのだと思う。</p> <p>T：みなさんが、もし五箇山に生まれていたら、「こきりこ節」について、どう感じていたでしょうか。</p> <p>C：大人と一緒に祭りとかでやるのは、楽しそう。</p> <p>C：でも、練習が大変そう。やらなきゃいけないから。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習問題】 私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくよさって？</p> </div>	<p>◆前時の児童の意見を、まとめて板書しておき、学習の振り返りを行うことができるようにする。</p> <p>◆児童に対し、「もし五箇山に生まれていたら」と、自身の状況を仮定して考えることのできる問いかけをすることで、個別の事例と児童自身とをつなげて考え、「自分だったらどう思うだろう」と考えることができるようにする。</p>
展開Ⅰ 15分	<p>○「八丈太鼓」の鑑賞・体験および、演奏者の話を聴くことで、五箇山や八丈島の人たちは、どのような思いで地域に伝わる音楽を学んでいるのかを考える。</p> <p>・「八丈太鼓」の演奏を聴き、気付いたことを話し合う。</p> <p>C：2人で太鼓を打っている。</p> <p>C：拍にのって、同じリズムを反復している。</p> <p>C：力強い演奏。</p> <p>C：なんだか踊っているような気分になる。</p> <p>C：聴いていると、うれしい気分になる。</p> <p>・前時に引き続き、長胴太鼓を使って、「八丈太鼓」を体験したり、友達の演奏を聴いたりする。</p> <p>・前時・本時で行った「八丈太鼓」の体験を振り返り、気付いたことや感じたことを話し合う。</p> <p>C：「自由に打つ」って難しいけど、楽しい。</p> <p>C：先生と合わせるのが、難しかった。</p>	<p>◆「リズム」「強弱」「音の重なり」等、これまでの題材で学んだ視点から考えるように促すことで、児童が音楽を形作っている要素とその効果について考えることができるようにする。</p> <p>◆教師は、「下拍子」を担い、児童は即興的に「上拍子」を打つようにする。</p> <p>◆体験を言語化する活動を組み入れることで、実際に郷土の音楽を演奏し伝えている人たちの気分を疑似体験することができるように</p>

	<p>C：もっとやってみたい。</p> <p>・再度、映像付きで、「八丈太鼓月曜会」の演奏を映像付きで聴く。</p> <p>C：自分たちの打ち方と全然ちがって、びっくりした。</p> <p>C：小学生が堂々と打っていて、すごい。</p> <p>C：さっき「カッコいい」と思って聴いた演奏が、同い年の子がやったものだったなんて、びっくり。</p> <p>・「八丈太鼓月曜会」に所属する児童の話を読み、地域に伝わる音楽を学ぶこと・つなげていくことのよさについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「おばあちゃんが、八丈太鼓をやっていて、それで（太鼓を）始めました。」</p> <p>「相手と同じ速さで、同じリズムはなるべく使わないようにしています。」</p> <p>「例会で、下拍子も上拍子も、カッコよくできるようにしたいです。」</p> </div>	<p>する。</p> <p>◆総合的な学習の時間で交流する、八丈町立三根小の児童が打っている演奏を聴くことで、児童が「八丈太鼓」をより身近に感じることができるようになる。</p> <p>◆「始めたきっかけ」「気を付けていること」「今後どうしていきたいか」に対するインタビュー映像を見せ、奏者がどのような思いで「八丈太鼓」を演奏しているかを考えるようにする。</p>
<p>展開Ⅱ 20分</p>	<p>○「こきりこ」「八丈太鼓」の鑑賞や体験を通し、自分たちが地域に伝わる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのかを考える。</p> <p>・個人で自分の考えをまとめ、付箋に記入する。</p> <p>C：地域の人々の伝統を受け継いでいくことができる。</p> <p>C：みんなで同じ音楽を演奏できると、楽しい。</p> <p>C：協力することを学べる。</p> <p>C：昔の人々や、地域の人々の思いや願いも、歌にのせて伝えていくことができる。</p> <p>C：なくなる、ということも、良さだと思う。</p> <p>C：できなくて、くやしい。努力をして、成長できるかもしれない。</p> <p>C：大人から子供へと音楽を教える中で、地域の大人の人と仲良くなれるかもしれない。</p> <p>C：自分たちの音楽を、受け継ぐだけでなく、広めていける。</p> <p>C：教わった側も、教えた側も嬉しくなる。</p>	<p>◆次時でチャート上にまとめることができるように、付箋に記入するよう指示する。</p> <p>◆支援を要する児童に対しては、「五箇山や八丈島の人たちは、どうして音楽を続けているのか」「音楽を演奏するときに、どんな気持ちなのか」を考えるように促し、よさを見出すことができるようにする。</p> <p>★民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽をつないでいる人々の話を聴いたりする活動を通して、友達や資料との対話を通して、自己の考えを調整しようとしている。【主 発言】</p>
<p>例 ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくと、伝統や文化を、次へとつないでいける。</p>		
<p>まとめ 5分</p>	<p>○郷土につたわる音楽を学び、続けていくことに、どのような良さがあるのか、自分たちの考えをまとめる。</p> <p>・グループで、短冊に書いた内容を交流する。次時で、グループごとにXチャートにまとめて、発表会をすることを知らせる。</p>	<p>◆モデリングすることで、チャートを使って自分たちの考えを仲間分けすることについて、見通しをもつことができるようにする。</p>

(3) 板書計画

【学習問題】 私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくよさって？

こきりこ節の体験

- ・ビブラートみたいな歌い方、長い音
- ・お祭りの楽きがかつやくする
- ・子供も大人も一緒に演奏している

できないと、くやしい
楽器には、いろんな打ち方が
ある
子供がやっていて、すごい。

八丈太この体験

- ・リズムのくりかえし
- ・と中で速さが変わった

合わせて打つと楽しい
自由に打つのが、難しい

○「こきりこ節」を演奏している人の思い

「住むならおどる、それが当たり前なんです。おどりは楽しいですよ。全国でここにしかないおどりをおどれるって、ほこらしいです。」
「古いスタイルのおどりや、そっきょうでつくったといううた。昔ながらでそばくで、「ほんもの」っていうのがみりよくです。」

○「八丈太こ」を演奏している人の思い

「相手と同じ速さで、同じリズムはなるべく使わないようにしています。」
「例会で、下拍子も上拍子も、かつこよくできるようにしたいです。」

(4) 資料 児童配布ワークシート（資料部分のみ抜粋）

資料 「こきりこ節」を歌いつぐ 五箇山（ごかやま）の人々の話

他のちいきから、五箇山に、嫁いできた人の話



Q どうして、おどりをおどっているのですか。

「住むならおどる、それが当たり前なんです。おどりは楽しいですよ。全国でここにしかないおどりをおどれるって、誇らしいです。」

ふだんは都会に住んでいて、おまつりの時にもどってくる人の話

Q おどりの 楽しさは何ですか。

「古いスタイルのおどりや、即興でつくったという、うた。古典的でそばくで、「ほんもの」っていうのが、魅力です。」



ほぞん会 会長 岩崎喜平さんの話



Q どうして「こきりこ節」は、復活したんですか。

「それは、「心」です。歌っておどると、「心」と「心」が繋がります。難しいことでは、つながることはできません。五箇山は、そういう「心」をつないだちいき、ということです。」

Q こきりこ節を、うけついでいくことについて どう思いますか。

「伝統をうけつぐ、となると、まずは師匠に弟子入りするところからですが、「こきりこ節」は、そういうものじゃなく、自由です。やりたい人がやればいいのです。」